

平成29年度第5回三重県総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日 時 平成29年11月6日(月) 13:00～15:00
- 2 場 所 津市立みさとの丘学園 1階 前期特別支援教室1
- 3 出席者 知事、教育長、教育委員4名
- 4 議 題 ・いじめの防止について
・英語教育について
- 5 主な意見 ○：教育長・教育委員、●：知事

<いじめの防止について>

○ 今のタイミングで条例を作り、いじめに対する姿勢を示すことは大変有意義である。条例の実効性をいかに保障し、その理念をいかに子どもたちと共有するかが課題である。

いじめの問題は子どもだけでなく、大人についても同様であるので、社会全体でいじめを防止するために、大人も対象に含めた啓発が重要である。

○ 対象について、児童生徒だけでなく、中学校卒業後就職した若者のいじめや、教員によるいじめもあるので、いじめを防止する対象を広げることも課題である。

また、いじめ相談も、長野県や大津市のようにSNSによる相談を行うことを考えてみても良いのではないかな。

○ 条例の中に、「自己肯定感・自尊感情を育む教育の推進」といった内容を盛り込めないか。

○ SNSによるいじめが中心になっているので、コミュニティスクールやまちづくり協議会がいじめの防止策を考えることで、リアルなコミュニケーションにつなげていくことが重要である。

○ SNSはいろんな意味で大きな手段であるので、それを使って啓発もするし、いじめが拡散しないように配慮していきたい。

● カナダのオンタリオ州ではピンクシャツデーといういじめ防止の啓発活動をやっているのだから、県でもこのような目に見える形での啓発活動に取り組みたい。また、SNSの相談・啓発については、来年度、国の事業を活用してやれるように努力しているところである。

<英語教育について>

※ 協議に先立って前期課程（2年生及び6年生）の授業を参観

○ 中学の英語教員が小学生に教えるなど義務教育学校の優位性を生かした指導を実践されていると感じた。一方で義務教育学校以外の学校でどのように取り組んでいくべきかが課題である。また、国際経験のある地域の方々から

話を聞く機会もあると有効であると感じた。

- 小学校での外国語活動はアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行っているが、中学校になるとアルファベットを書くことから始める授業に戻ってしまう例もある。中学校の英語教員が小学校で実践されている授業内容をよく理解し、スムーズな接続を行うことが重要である。
- 授業以外に日常的に英語に触れる機会を増やすことが大切である。また、英語を話せると可能性が広がり世界観が変わるということ子どもたちに教えてもらおうとよい。
- 中学生の4割が英語に苦手意識をもつなど、これまでの中学の英語教育は成功していないと感じる。小学生から「書く」「読む」を前倒しすると早期から英語への苦手意識をもってしまう懸念がある。これまでの取組の総括をしたうえで今後の教育を進めることが重要である。

英語は欧米の多様性、個人主義といった文化を前提とした言語になっている。日本人は自分の意見をはっきり言わないことが弱点のように言われるが、そこが日本人の美德であるので、言語は文化と密接な関係があることを踏まえたうえで英語教育に取り組んでほしい。

教員養成段階においてネイティブから教わるという機会が少なく、研修や人的配置も十分ではない。このような現状を踏まえたうえで本県の英語教育のレベルを確保するにはどうしたらよいかを考える必要がある。

- 授業を参観して、楽しいだけでなくクラスマネジメントができていること、多少間違ってもすぐに否定せず受け入れていること、子どもたちが教え合う要素があることが優れていると感じた。

今後の英語教育に不安を感じる小学校教員も多いと思うので、県教委は研修や教材の充実を通じて、教員の不安を払拭することが大事である。

以上